

マンフレッド・アウスト教授 海外招聘特別レッスン 2019年9月18日(水) 於 L506

アウスト先生は、2004年に若干28歳で、当時のドイツの音楽大学の最年少教授となり、以来、リューベック音楽大学の教授として国際的に活躍する多数の優れた門下生を輩出しています。国際的に高い評価を受けた教育者としてドイツ、ポーランド、日本、中国、インドネシアでマスタークラスが開催され、定期的にコンクールの審査員も務めています。

一昨年に続き2回目の海外招聘特別レッスンとなる今回は、5名(大学院生3名、学部生2名)がバルトーク、ベートーヴェン、ショパン、J.S.バッハ、リストの作品を受講しました。アウスト先生自身優れた演奏家として幅広いレパートリーを持ち、「円熟の境地」「アウストに解けない課題はない」と評されているだけに、それぞれの楽曲の真髄へと導く入口が実に豊富で、1時間という限られたレッスン時間でありながら、あっという間に学生達をその楽曲の世界に深く没入させ、先ずは作曲家の意図を深く読み取り、そこで自分が何を感じ何を表現したいかを迷いがなくなるまで導いて行きます。学生達の自発的な表現意欲が満ちてきたと思われたところで、技術的なアドバイスを具体的なかつ合理的になされます。そして何よりも見事に思えたのは、最後に表現することへの強い勇気と力を送り込んで下さることで、受講生それぞれが、喜びと自信をもって生き生きと演奏する姿に変えられていったことです。まるでマジックを見ているような印象でした。

アウスト教授からは、今回多彩なプログラムを様々なタイプの学生と取り組めたことがとても楽しい時間であったこと、そして前回に引き続き、洗足学園の素晴らしい施設と環境の中でレッスンできたことへの深い謝意を伝えられました。

